

支部同窓生往来

歩んできた日々を振り返って

梅津 貞子（昭49）

このたびは、村山支部同窓会報への寄稿の機会をいただき、大変恐縮しております。

高校時代、私は地元の手ノ子から当時の米坂線と長井線に乗って通学していました。雪の日も風の日も列車に揺られながら通った日々は、今もかけがえのない青春の思い出です。

私には幼少の頃から「看護師になりたい」という一途な夢がありました。卒業後はその夢を叶えるため、山形市立病院済生館高等看護学院で三年間学び、済生館に看護師として入職しました。以来、定年まで三十九年間勤めることができました。患者さんやご家族、多くの同僚との出会いに恵まれ、悩み迷うこともありましたが、笑顔と思いやり、誠実さを大切に歩んできました。それを支えてくれた家族にも感謝しています。

ところが退職後は、ゆっくり過ごすつもりだった生活が思いがけない展開を迎えました。定年を機に体のあちこちに不調が現れ、この十年で四度の入院と手術を経験したのです。すっか

新聞記者にできること

佐々木 亨（平5）

この度、同じ町内会という縁で佐藤和志先輩に言われるまま講演させていただく運びとなりました。山形新聞社の記者になって四半世紀。原稿を書くのが仕事でして、人前でお話しするのはかなり、苦手です。私の拙い話に付き合っ下さった出席者の先輩方、誠に有り難うございました。

講演では、南陽市出身で毎朝、赤湯駅からフラワー長井線に乗って通ったこと、学業に一切秀でることなく、帰宅部だったといった自己紹介を少々。名門・長井高を卒業後は一浪して図書館情報大（もうありません。一応国立なのです）に進み、何とか山新に入社。記者職志望ではなく、たまたま記者に就いたことなどをお伝えしました。

さて、昨今の話題として新聞やテレビといった従来の報道機関を指して「オールドメディア」との言葉が横行する世情について、自身の考えを述べさせていただきます。既存媒体に批判が強まった兵庫県知事選（パワハラ疑惑などで県議会から全会一致で不信任決議を受けた現職が再選した、あの知事選です）を取り上げ、地元紙を巡る「過熱したSNS」「これまでに経験したことのない選挙取材」について説明。神戸新聞社に起きた事は、山形に根差すわれわれにとつて決して人ごとでないこと、県民の声に立脚する姿勢はこれまで同様でありつつ「読者の知り

り患者の立場になりましたが、それもまた多くの学びと人との関わりを得る機会となりました。

その一方で、福祉協力委員として地域活動に関わり、孫を通して保育園や学童との縁も広がりました。また、庭の花々の世話や書道愛好会、仲間との語らいも、日々の大きな楽しみです。季節の移ろいを感じながら草花の手入れをする時間は、心を穏やかに整えてくれます。書道では一文字一文字に集中することで気持ち引き締まり、仲間との交流からは新しい刺激や笑顔をもたらしています。地域の行事や集まりに参加すると、世代を超えたつながりの大切さを実感します。これからも無理のない範囲でこうした時間を大切にし、日々の小さな喜びを重ねながら、心豊かに暮らしていきたいと思っています。

振り返れば、看護師として過ごした年月も、地域の仲間と支え合う時間も、すべてが今の私をつくる大切な財産です。だからこそこれからも健康に感謝し、好奇心を忘れず、一日一日を丁寧に重ねながら、笑顔で歩んでいきたいと思っています。

趣味の勧め

五十嵐（手塚）恒子（昭50）

令和七年六月十四日、鷹桜同窓会総会並びに「第49回同窓生のつどい」がありました。私達は最後の招待学年ということでした。夕方より、萩苑にて古希の同級会があり、最後

たい情報」をいかに紙面化するかといった課題に正面から向き合い、答えを見出さねばならないとの主旨でお話ししました。一方、自分が欲しい情報を手軽に入手できる現代において、その背景にある文脈を「ノイズ」として聞き耳を持たない危うさを指摘する文芸評論家・三宅香帆さんの著書について触れました。

また、出席者の皆さんからの質問に答える時間も設けました。「〇〇の選挙予想記事は当たったが、□□の選挙では外れた。どうして？」といった耳の痛い質問も頂戴し、しどろもどろの返答となったことをここにお詫び申し上げます。貴重な機会を与えていただき、有り難うございました。長井高校、ありがとうございます！



昭和50年 学校上空より長井市を眺む（鷹桜同窓会 HP より）

の同級会ということで、学年の三分の一、約九十名の参加がありました。九十名の記念写真は、圧巻でした。高校を出てから五十年、みんなの話はすべてが興味深く、大いに盛り上がりました。同級生ならではの本当に楽しいひと時を過ごしました。

今年三月、高校の同級生友達四人で、二泊三日の東京大人の修学旅行に行って来ました。靖国神社・明治神宮・迎賓館・都庁、巣鴨、知っているようで知らない東京を回ってきました。夜は、新宿のものまねショーに行ってきました。あいかわい翔（哀川翔）は長井出身で、長井の豊田夏祭りでは大盛況だったとか。料金プラスの前列で「長井から来ました」と応援してきました。歳は六十九才、心は十八才の私達でした（笑）

私は仕事を辞めた六十二才から、趣味で俳句を始めました。

同級会、東京旅の俳句です。

みな老いて皆あたたかし同級会

五十年の友と東京春の旅

昨年は、（公益社団法人）俳人協会「全国俳句大会」で、特選に選ばれ東京の有楽町ホールでの表彰式に行ってきました。

ふらここのこは私に戻る場所

季語 春 ふらここのこ（ぶらんこ）

「ここのこ」はぶらんこの座板で、自分自身を取り戻す場所。映画『生きる』の志村喬を思い出す。との選評をいただきました。

趣味は、老後を豊かにします。また、心の支えにもなります。みなさんもそれぞれ趣味をお持ちだともいえますが。

俳句に興味のある方、一緒に俳句を始めてみませんか？

ご協力お願いします

◆寄稿のお願い

在学中の思い出などの寄稿文をお寄せください。800字程度。武田090-9538-0679までご連絡ください。

◆会費の改定（1,000円→2,000円）

これまで特別会計を取り崩して単年度赤字を補填する形で運営してきましたが、支出の削減にも限界があるため、会費の値上げについて幹事会並びに総会にお諮りします。令和9年度からの予定です。

令和8・9年度 支部役員選任（案）

（役員の皆様には原則再任をお願いし、幹事会、総会に諮り承認していただく予定です）

支部長	副支部長	監事	事務局	幹事	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
昭49	昭48	昭49	昭49	昭49	昭48	昭47	昭46	昭45	昭44	昭43	昭42	昭41	昭40	昭39	昭38	昭37	昭36	昭35	昭34
高橋 公夫	山上 直朗	武田 嘉一	遠藤 則子	後藤 美子	青木 裕子	小林 順子	大江 郁子	高橋 郁子	樋口 愛子	江口 晴一	鈴木 英明	清水 通子	孫 淳	芳賀 道也	金田 和義	手塚 孝樹	平 9	〃	〃

※事務局は支部長の委嘱です